

佐賀の木 空間再生コンペ

年齢、資格、経験

子ども  
の参加  
大歓迎!!

一切問わない。

佐賀県産木材

デザイナーレクター  
石山修武



を使った

リノベーション

空間再生

24h

コンペ

<https://saganoki.info>

設計・監理費 50-150 万円

10/21 伊万里公民館講堂

佐賀県林業課 さがつく木のインテリアデザイン創出事業

# 佐賀で切り拓く再生の可能性

世界で一番とは言わぬが、日本で一番独特であり続けたのが佐賀県である。グローバリズムは地球規模で、誰の眼にもわかるような均質化・画一化を進めている。佐賀県は大陸に最も近い地政を持つ。しかし、日本のこれ迄の近代化は余りにも太平洋岸の都市を中心として進められてきた。すなわちアメリカ文明文化型であった。

わたくしは幸い佐賀県の大きな支援を受け一九九九年から三年間、佐賀でバウハウスとのスクールを開催した経験を持つ。バウハウスは良く知られる如くに近代建築デザインの祖とされている。佐賀には遠くドイツ・ワイマールから毎年少なからぬ若者達が集り、教師共々、佐賀を学び、新しい建築デザインの可能性を探求した。遠いワイマールからの学生達にとつて、佐賀は実に魅力的な場所であり、歴史でもあった。

この度、再び佐賀県の多大な支援のもとに、佐賀に於いて、リノベーション（再生）の可能性を探ろうとなった。再生はこれ迄、ゆつくりとした速度で、それ故にこそグローバリゼーションの台風の眼の中の静寂の如くでもあった佐賀ならではの試みである。九州・佐賀のみならず、広く日本、そして海外からのアイデアが寄せられるのを望みたい。

## デザインディレクター 石山修武

いしやま・おさむ 早稲田大学名誉教授。一九四四年、岡山県出身。八五年、伊豆の長八美術館（静岡・松崎町）で吉田五十八賞。九五年、リアス・アーク美術館（宮城・気仙沼市）で日本建築学会賞作品賞。九六年、「瓦礫の散乱する廃墟」でヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞（最高賞）。二〇〇二年、世田谷村で芸術選奨文部科学大臣賞。一九九九・二〇〇一年に「早稲田バウハウススクール」を主宰。磯崎新氏や安藤忠雄氏をはじめ、日本有数の著名な建築家のほか、坂田明氏や森正洋氏など多士済々な講師陣を佐賀に呼び、世界から集まった学生、職人、設計者に大きな刺激を与えた

佐賀県ではリノベーションを通じて佐賀県木産材をPRする「さがつく木のインテリアデザイン創出事業」を行っています。今年度は「佐賀の木 空間再生コンペ」と題して、建築家・石山修武氏のディレクションのもと、佐賀県産木材を利用したリノベーションを担当するデザイナーを幅広く募集します。年齢、資格、経験、一切問いません。1次審査の課題は審査日の24時間前に発表。物件の個性に合った設計候補者を選出します。最終審査では実際の物件に対するアイデアを提案してもらい、設計担当者を選びます。

### ●参加資格

一切なし

### ●物件

佐賀県内のリノベーション最大3物件  
(100平米未満)

### ●設計・監理費

各50-150万円（事務局で面積、難易度など総合的に勘案。サポート設計者が必要な参加者は仕事量で按分）

### ●1次課題発表

10/20（土）10:00  
「佐賀の木 空間再生コンペ」サイトで発表。saganoki.info  
誰でも参加できる、専門能力が不要な課題。デザイン能力や社会性、考え方などを把握することが目的

### ●1次課題提出

10/21（日）10:00 伊万里公民館  
提出は会場受付に直接持ち込みのみ。表現の形式は自由（特別な機材が必要な場合は各自用意する）※提案者の氏名、所属が分かるような表記があるものは除外

### ●1次審査

10/21（日）13:30 伊万里公民館  
提出された課題から12提案程度選出。  
公開プレゼンテーションで計6提案を選抜

### ●最終審査

11月初旬  
担当予定物件の具体的なリノベーションアイデアを提出（設計プレゼンテーション費用として各組10万円）。物件ごとに設計担当者決定。条件：佐賀県産木材を使用

### ●選抜後のスケジュール

11月中旬 リノベーション案最終決定  
2月中旬 物件完成

### ●問い合わせ

佐賀の木 空間再生コンペ事務局（NPO まちづくり研究所）  
saganokisaisei@gmail.com  
※コンペに関する質問と回答は「佐賀の木 空間再生コンペ」サイトですべて公開

<https://saganoki.info>